県民とリハビリテーションをつなぐ情報誌

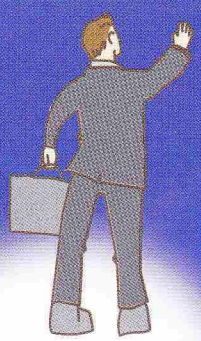
和なごみ

Vol.22／2012 Feb.

特集

続・人生や生活を楽しむ

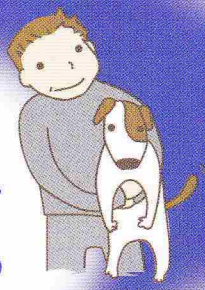
～自分のやりたいことが実現できるように～



個性の発揮、自己実現

収入を得る

選択の機会がある



気持ちを発散する

好きなことをして楽しい時間を過ごす

役割と居場所をもつ

はたらくことは、単に所得を得る事だけを意味していないと言われています。また、あそぶことも単に自由な時間を過ごすということだけを意味しているものではないと言われています。

はたらくことと、あそぶ（余暇を過ごす）ことは、密接な関係にあり、それぞれが補い合って生きがいのある生活をつくりだすのではないでしょうか。

編集・発行

滋賀県守山市守山五丁目4-30　滋賀県立リハビリテーションセンター（成人病センター内）

TEL 077-582-8157／FAX 077-582-5726／e-mail ef4701@pref.shiga.lg.jp

「自分でするリハビリ」サポート

街ではたらく！ 自分は無理？決してそうじゃない！

できることから少しずつ・・・。新しい出会いがやりがいに。

Nさん　交通事故で高次脳機能障がいと診断される。
野菜作りを通じて、同じ障がいのある人や家族が集える場作りを目指す。

喜んでくれる人がいるから取り組める。

太陽の光を浴び、心地よい風を感じながら、土と親しみ、軽く汗をかいて農作業をする。

失敗も多く、虫や鳥に食べられてしまいつつ、“新鮮な証拠”と孫や子どもが喜んでくれる野菜作りは嬉しいものです。

農業と出会えたことが転機に！

交通事故にあい、病院で高次脳機能障がいと診断を受けた。当初は、物事を記憶することができなかったが、メモをとるようにするなどして、少しずつ記憶ができるようになってきた。

通院しながら一度は職場復帰を目指したが、完全復帰することはできなかった。

そんな折、農業との出会いがあった。それまでは、仕事に復帰することばかりを考えていたが、自分のやれる範囲で、栽培計画をたて、収穫までの一連の作業をすることが今はやりがいになっている。

食べてくれた人が「おいしかったよ」と言ってくれることが嬉しいし、地域の人とも野菜談義ができるようになり、挨拶を交わすようになって、仕事人間から地域住民へと変わることができた。

同じ障がいのある人や家族が集える場をつくる。

そんな体験を同じ障がいのある人やご家族とも一緒にできないだろうかと考え、GFF(Go Family Farm)と名付けた作業農園を立ち上げました。

毎週木曜日の午前中と、第３日曜日の午前中、約１時間程度の農作業をしています。

まだ半年程度の取組ですが、夏の暑い日もあり、これから寒い日もあるが、定期的に参加してくださる方もあり、参加者みんなで収穫した野菜をみんなが持ち帰って味わうようにしています。みんなで喜びあえることが、次の頑張りにつながります。

出来ないことよりも出来ることを。

交通事故から3年半・・・。

できないことを悔やむより、できることに前向きに取り組んでいく、そんな生き方ができたらいいなと思う。

当面の課題は、GFFにたくさんの人が集まること。

リハビリテーションセンターでは、お年寄りや障がいのある方が住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう「自分でするリハビリ」を応援しています。

いつまでも自分のしたい生活が続けられるためには、単純に運動や身体作りをするだけでなく、生活の中で自分なりの生活目標を見つけることができるよう、地域活動に参加できるための環境作り（町づくり）が必要です。

街へでかける！ バリアフリーへの取組は進んでいるの？

移動手段はどうなっているの！？

出かけるために必要な移動手段は・・・？

前号では、地域活動に参加するための情報を調査している団体を紹介しました。今回は、お出かけするために必要な移動手段を取り上げます。

最近ではバスや電車のバリアフリー化をすすめる駅などが増え、ずいぶん利用しやすくなりましたが、行きたい時に行きたい場所へ行こうと思うと、バスや電車だけでは、出かけにくい方々もいらっしゃいますね。

情報が集約されていない。

外出する際に、玄関から玄関まで送迎してくれる介護タクシーや移動支援サービスは助かりますね。

しかし・・・

その介護タクシーや移動支援サービスの料金体系・サービス内容等については、道路交通法や介護保険・福祉サービスの様々な制度が関わっており、現状のサービス状況を一括して管理することや情報の集約がされていない状況にあります。

どんな移動手段があるの！？

移動サービス・移送サービス・福祉タクシー・介護タクシー・・・

これらの移動手段の実施は、ＮＰＯ法人や市民団体等が登録をして行われている場合や、タクシー事業者や運送業者が実施されている場合があります。また、介護保険や自立支援法の制度を通じて利用することができるものや制度に関係なく利用することができるものもあります。場合によっては、事前に予約が必要な場合もあります。

ここで、注意しないといけないのは、どちらも事業所によってサービス内容が異なるので、利用の際には下記の項目などを確認する必要があるようです。

利用前に確認を！

◇介助内容については、乗車に際して家の中まで介助に来てもらえるか、また目的地に到着した際には建物の中まで介助や付き添いをしてもらえるのかどうかを確認しましょう。

◇車種が異なることがあります。通常のタクシーで使われているセダンタイプや軽自動車、車いすのまま乗車可能なスロープやリフト付きタイプなど、どのような車両があるかを確認しておくとより安心です。

◇最後に料金体系です。事前予約が必要な事業所は、場合によっては貸切運賃が必要なところもあります。また、逆にタクシーの料金体系と同様に走行距離に応じて運賃が必要なところもあります。

事業所を調べるには、介護タクシーについては、電話帳タウンページに通常のタクシー欄とは別欄で介護・福祉タクシーの欄があります。

また、インターネットの goo タウンページ → http://townpage.goo.ne.jp/ （「介護タクシー」と検索。）でも調べることができます。

移動サービスや移送サービスについては、お住まいの地域の市役所等で介護保険や自立支援法にかかるサービスとして問い合わせることができます。

rehabilitation column

リハビリコラム vol.10

リハビリテーションセンターはこんな活動をしています

リハビリテーションセンターでは、特定の疾患や障がいにかかるリハビリテーションへの取り組みについて、医療部門と支援部門でチームを組んで活動をしています。

今回は、高次脳機能障がいに取り組んでいるチームの紹介です。

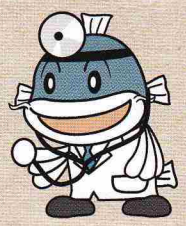
- 高次脳機能障がいチーム
- 摂食・嚥下チーム
- がんチーム
- 脊髄損傷チーム
- 難病チーム
- 予防チーム

高次脳機能障がいチーム

病気や事故などの原因で脳が損傷され、言語・思考・記憶・行為・学習・注意などに機能障害が起きた状態を高次脳機能障がいといいます。原因として多いのが脳卒中ですが、交通事故による外傷性の脳損傷でも多く見られます。

受傷・発症後、身体的な後遺症を残さない限り、外見上障がいのあることがわかりにくく、「見えない障がい」と言われています。また、そのような症状も時には出たり、出なかったりで、症状の説明も簡単なことではないのが現状です。そのため周囲の理解を得られにくかったり、本人すら症状に気づかないということもあります。

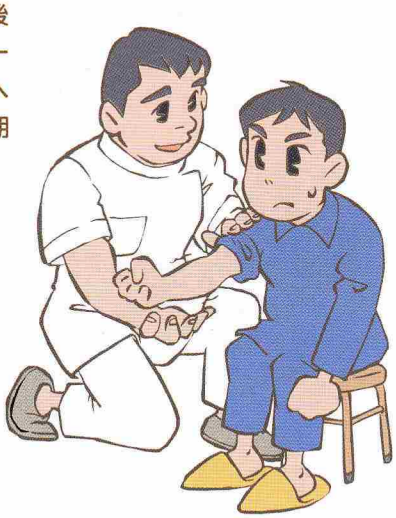
県立リハビリテーションセンター医療部（成人病センター）では、高次脳機能障がいに係る診断や検査を行っており、さらに高次脳機能障がいチームとして、専門的な取組を実践したり、関係機関と協力しながら、研修会の開催や地域の支援体制作りを行っています。



回復期リハビリテーション病棟ってなんだ!?

回復期リハビリテーションは、疾病や事故により障がいがあっても残された能力でその後の生活を自立していく力が必要な患者さんを対象に受け入れます。多くの医療専門職がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。リハビリテーションセンターには40床の回復期リハビリテーション病棟があります。

では、他の病棟とどんなところが異なるのでしょうか。



Part 2 食事はどうしてみんなと一緒なの!?

急性期治療の間は、お食事も各部屋で食べられてますが、回復期病棟では、ベッドから起き上がり、食堂で食事をしていただきます。ご自宅でお食事をされる場合も、ベッドではお食事されないですよね。生活のメリハリをつけていただくために、食事は食事スペースで摂っていただくようにしています。

また、皆さんとお食事していただく事で、他者との交流機会になるなど、社会参加的な要素も含んでいます。

編集後記

タクシー（taxi）の語源は、税金（tax）と同じだそうです。
種明かしをすると、taxi はtaximeter cabの略語であり、
taximeter とは「料金メーター」を意味しているとのことです。ご存知でしたか？

担当：宮本・山原

この印刷物は古紙パルプを配合しています。